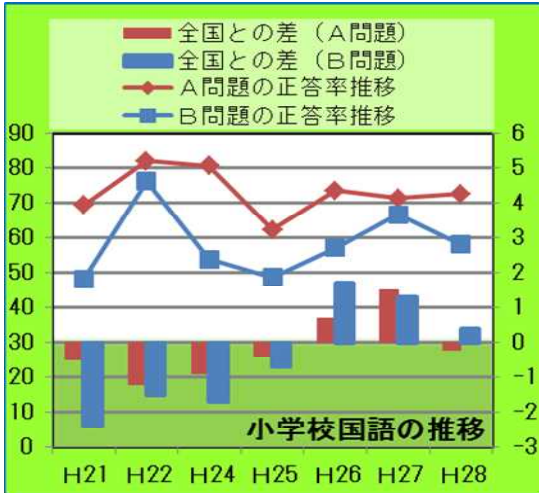


平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

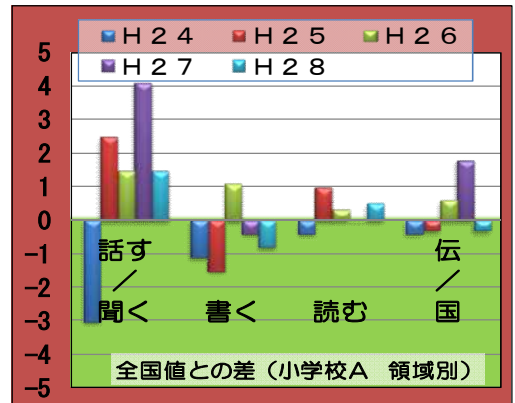


小学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	80.7	79.2	1.5	
書くこと	72.0	72.8	-0.8	
読むこと	79.0	78.5	0.5	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	71.1	-0.3	
国語A全体	72.7	72.9	-0.2	
小学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	51.0	51.1	-0.1	
書くこと	54.3	53.4	+0.9	
読むこと	70.3	69.3	+1.0	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	出題なし		…	
国語B全体	58.2	57.8	+0.4	

小学校：国語A

全問題数：15問（選択式6問・短答式9問・記述式0問）

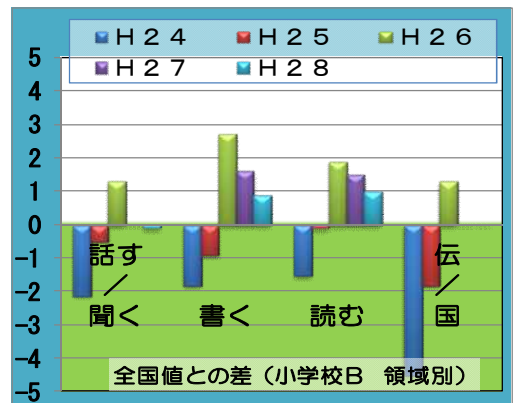
- ・県平均正答率72.7%（選択式77.5%・短答式69.5%）。平成27年度に比べ、正答率は上昇したものの、全国値を0.2ポイント下回った。
- ・「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は、全国値を、それぞれ0.8ポイント、0.3ポイント下回った。
- ・特に漢字、ローマ字に関する設問では、9問中6問全国値を下回り、習得させるべき内容に関する指導の工夫が課題として挙げられる。



小学校：国語B

全問題数：10問（選択式6問・短答式0問・記述式4問）

- ・県平均正答率58.2%。平成27年度に比べ、正答率は下回ったものの、全国値から0.4ポイント上回った。また、記述式の設問においては、1.4ポイント上回った。いずれの点においても全国平均に対する優位性は前年度から減少している。
- ・全問題において、無解答率が全国平均より低い。ただし、この点については、市町村によりばらつきが見られるので、注視すべき点である。



小学校：その他

- ・国語A・国語Bともに正答率が全国平均以上の児童は46.2%（前年度51.9%）、国語A・国語Bとも平均未満の児童は27.5%（前年度25.0%）であった（中間層以下が増加）。
- ・児童質問紙の国語科授業に関する問い（(66)～(69)）において、全国値に比べ肯定的な回答が少ない。更なる授業改善が求められる。

2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

小学校：国語A

(1) 書くこと

①書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。〈指導事項・書くこと5・6年カ〉

A3 (正答率66.3%・全国67.4%)

- ・読み手の立場から文章を客観的に評価し、どのように書き換えればよいのかを具体的に助言することに関する設問。「◆ルール説明」と助言を受けたあとの〈書き直したルール説明〉とを比べて、書き直した点を捉える力が必要である。
- ・選択肢1～5は、いずれも「お知らせ」等の文章を考える際に留意すべきことである。表現をよりよくするための助言の視点として、学習指導要領解説国語編に「書き手の考えが明確に表れているか」「段落相互の関係などが明確であるか」などが挙げられているが、本問の場合「読み手が理解しやすいように更に改善

5 一文が長くて内容が伝わりにくいので、いくつかの文に分けた方がよい。

4 ゲームの手順が正しく伝わるように、接続の言葉を使った方がよい。

3 だれにでも分かるように、難しい言葉をやさしい言葉にした方がよい。

2 多くの人に伝えるので、文末を呼びかけるような表現にした方がよい。

1 ゲームの手順が分かりやすいように、内容のまとまりごとに番号をつけた方がよい。

【学年集会のお知らせの下書き】

学年集会のお知らせ
「めざせチャンピオン
じゃんけん列車ゲーム」
5月12日(木)、8時25分から、
体育館で行います。

◆ルール説明

二人でじゃんけんをして、負けた人は勝った人の後ろにならんで列を作り、勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをし、それを全員が一列になるまでくり返して、最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

3 次は、大西さんが作った「学年集会のお知らせの下書き」です。大西さんは、友達に助言をもらって、下書きの中の「◆ルール説明」を書き直しました。その助言の内容として適切であると考えられるものを、あとの1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

〈書き直したルール説明〉

① 二人でじゃんけんをします。
② 負けた人は勝った人の後ろにならび列を作ります。
③ 勝った人は他の列の先頭の人を見つけてじゃんけんをします。
④ ②、③を全員が一列になるまでくり返します。
⑤ 最後まで先頭にいた人がチャンピオンです。

目的や相手等に応じた文章記述の工夫を捉える。

できる部分はないか」という視点での助言と考えられる。その具体としてどのようなものが考えられるかを選択肢から選ぶ力が必要である。

- ・正答が66.3%、「1と解答しているが、5と解答していないもの」が14.5%、「5と解答しているが、1と解答していない」が9.5%となっている。「5」を選ばなかったのは、「学年集会」という言葉と「2多くの人に伝える」「3だれにでも分かるように」という言葉とを関連させて考えた、または「1」を選んだがために、一部重なる内容となる「5」を選ばなかったと推測される。
- ・本問に必要な知識を得るには、書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、文章全体の構成を考えながら適切に書く力を付ける言語活動が必要である。
- ・本問に関連する問題が、平成25年度調査で出題されている。授業アイデア例を参考に、関連する言語活動を行うことが重要である。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」32・33ページ

(2) 読むこと

①登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える〈指導事項・読むこと3・4年ウ〉

A6 (正答率64.4%・全国63.9%)

- ・物語を読み、人物像を捉えるために場面の移り変わりに注意しながら複数の叙述を関係付ける力に関する設問。
- ・【大森さんの考え】として、「編み物が大好きで、納得がいくまで編み物の模様をくふうするおばあさん」と捉えている。自分の考えを友達に説明するためにおばあさんの人物像として考えた根拠を適切に捉える必要がある。

- ・選択肢ごとの反応率は、
 - 「1 糸がよれよれになっていた」 21.4%
 - 「2 窓から入ってきた」 5.5%
 - 「3 ちょうちよがはいってきたことも、まるで気がつきませんでした」 64.4%
 - 「4 そっと手で、ちょうちよをはらいのけました」 7.8%
- ・実際の授業では、こういった人物像を捉えるための学習活動を行うことが重要
- ・登場人物の人物像を捉えるために、物語全体を通して人物像が分かる行動描写や会話などに印を付けたり線を引いたりし、それら複数の叙述を関係付けながら考えさせることが重要である。
- ・シリーズとして刊行されている作品には、登場人物や状況設定など、共通した特徴をもつものが多い。シリーズの作品を重ねて読むことで、登場人物の人物像を多面的に捉えることができる。
- ・「4年間のまとめ【小学校編】」において、「物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えること」に、平成20年度【小学校】国語B2において、「二つの物語文の冒頭部分における登場人物の特徴をとらえること」に課題があると指摘されている。同様の本問は正答率が64.4%であったことから、依然として課題があると言える。
- ・「平成22年度【小学校】授業アイデア例」、「平成26年度【小学校】授業アイデア例」を参考に授業を構築することなども求められる。

6

大森さんは、「おばあさんの飛行機」という物語を読み、登場するおばあさんがどのような人物なのかについて考えました。次の【大森さんの考え】をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【大森さんの考え】

編み物が大好きで、納得がいくまで編み物の模様をくふうするおばあさんという感じがするな。

(問い) 大森さんは、自分の考えを友達に説明するために、根拠となる表現に~~~~~線を引きました。もう一度読むと、根拠となる表現が他にもあることに気がきました。気がついた表現として最も適切だと考えられるものを、次の【物語の一部】の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

部1から4まで

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」42～44 ページ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。〈指導事項・伝国5.6年(1)ウ(ア)〉

A□二3 3 先生にそうだんする。(正答率63.6%・全国64.2%)

- ・正答は「相談」である。「相」「談」はともに第3学年で学習する漢字である。「相談」は児童の使用語彙であると考えられるが、正答率が低い。主な誤答例は「相」を同じ発音をする「想」と解答しているものである。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字について、意図的・日常的に正しく読んだり、書いたりすること、それらを文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。
- ・また、漢字の書きを習得するためには、ある程度の練習量が必要となる。



漢字を取り立てて指導する時間を設定する、授業時間のはじめに漢字の書きを練習する、家庭学習で漢字の書きの練習をさせるなど、習得のための手立てを学校全体で行って行くことも必要である。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」25～27 ページ

②平仮名で表記されたものをローマ字で書く／ローマ字で表記されたものを正しく読む

〈指導事項・伝国3.4年(1)ウ〉

A㊦1 「りんご」をローマ字で書く (正答率52.1%・全国53.2%)

A㊦2 「あさって」をローマ字で書く (正答率40.2%・全国41.8%)

A㊦3 「h y a k u」を読む (正答率49.9%・全国50.7%)

- ・平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることについては、課題が見られる。
- ・本設問は、平成21年度【小学校】国語A2において、清音に比べて、濁音で表記されたものをローマ字で

書くこと、促音を含んだローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題が見られたことを踏まえて出題であるが、結果からも、濁音だけでなく撥音、拗音、促音についても課題があることが明らかになった。

- ・ローマ字の読み書きについては、子音と母音の組み合わせであることを意識し、規則性を理解させる必要がある。また、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについて、規則性があることに気づき、身に付けることができるように指導することが重要である。
- ・上記のことを理解させ、気付かせるためには、やはり繰り返し、書かせたり、読ませたりすることが必要である。
- ・ローマ字は、生活の中で情報機器の入力等に利用されているが、今後、児童の情報活用能力を高めるためにも小学校段階でしっかりと習得させておくべき事項である。

【参照】「平成 28 年度全国学力・学習状況調査報告書」48・49 ページ

重要

※「国語A」と質問紙調査から考えられること。

学校質問紙に「(72) 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」とある。肯定的な回答が97.5%であったが、A問題の状況から考えると、その内容をきちんと振り替えることが求められる。各種調査で明らかになっていることを今一度見直し、取り立てて指導すべき事項を決めることも必要である。また、漢字・語句などの事項の定着については、家庭学習で図っていくことも必要である。学校質問紙(92)～(100)から家庭学習に関する指導の充実は見られるが、児童質問紙「(23) 家で、学校の授業の予習をしていますか」

(36.9%)、「(24) 家で、学校の授業の復習をしていますか」(51.8%)であり、家庭学習における指導が十分に浸透していないこともうかがえる。

小学校：国語B

(1) 話すこと・聞くこと

①話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る<指導事項・話すこと・聞くこと5・6年エ>

B□一・二 (一 正答率 50.1%・全国 51.8% / 二 正答率 51.0%・全国 51.1%)

予想とは違う回答を得たため、質問を変更。

「事前に準備したインタビューメモ」

1 山下さんは、食について興味をもち調べたところ、もっと知りたいことが出てきたので、地域のスーパーマーケットの店長にインタビューをすることにしました。次は、山下さんが「事前に準備したインタビューメモ」と「インタビューの一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【事前に準備したインタビューメモ】

だらうか。

スーパーマーケットの食料品売り場では、お客さんの希望にどのように応じているのか。

食料品売り場について調べたこと

・スーパーマーケットでは、様々な外国産の食料品がはん売されている。

（必ず聞くこと）

外国産の食料品は売られているのか。

「予想」ねだんが安いから売れている。

（必要に応じて聞くこと）

ねだんが安いものが売れるのか。

最近売れている食料品は何か。

お客さんの反応はどうか。

地産地消についてどう考えているか。

地域で生産された農作物などはほんの少ししか売られていないか。（予想）新せんものをいきよする。

地産地消と書いたせん任の売られている。

（インタビューの一部）

山下さん スーパーマーケットはよく売れておられますか。

店長 よく売れている食料品は値段が安いですか。

山下さん そうですね。売れている外国産の食料品は値段が安いものが多いですよ。

店長 売れている外国産の食料品は安いものが多いことですが、安い食料品がお客さんに選ばれているのですか。

店長 安い食料品も売っていますが、産地に関らず値段の安い食料品もお客さんは選んでいます。

山下さん お客さんは安いというだけで選んでいるわけではなく、どうしてですか。では新せんや品質など、安心して食べることができるものを選んでくれるお客さんもいらっしゃると思います。お客さんは、様々な選び方をされています。

店長 分かります。お客さんの選び方は、いろいろあるんですね。今の話とも関係があると思うのですが、店内には地元産の農作物もたくさん売られています。お客さんには、地元産のものも選んでいただいています。地元産の農作物も「安心しておいしく食べる」と、大好評です。

◇店長

山下さん

5（インタビューが続く）

1 山下さんの「事前に準備したインタビューメモ」は、このようにふうになっています。明として当てはまらないものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

2 事前に調べたことから質問を考え、関連した情報を得ることができるようにしている。

3 質問に対する答えを予想し、相手の答えに応じた質問をすることができているようにしている。

4 あらかじめ複数の質問を考え、話の展開に応じて質問をすることができているようにしている。

二「インタビューの一部」の□では、山下さんは、このように意図で質問をしています。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 店長の発言を受けて、予想が正しいことを確認する質問をしようとしている。

2 店長の発言を受けて、予想のちがいを考えて新たな質問をしようとしている。

3 店長の発言を受けて、メモの内容に沿った質問をしようとしている。

4 店長の発言を受けて、予想を自分の言葉で言いかえて質問をしようとしている。

必要に応じた質問もある。

- ・選択肢1の反応率は28.0%である。本文中にある「半年間の活動後には」に着目せず、「夜十時までには寝る人の割合」のみに着目し、選択肢1の「三十パーセント程度」を、5月の結果における「午後9時より前」と「午後9時から10時より前」のそれぞれの数値を足したものと捉えたと考えられる。
- ・情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述するためには、社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かすことが必要である。
- ・また、根拠として、文章の中で図表やグラフなどを用いる場合は、文章と関係付けながら、図表やグラフなどを読む必要がある。
- ・なお、本間のようなグラフを読み取るポイントとしては
 - ① 〈図1〉は、何についてのグラフなのかを確認する。
 - ② グラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているのかを確認する。
 - ③ 半年間、活動に取り組んだ結果、夜十時までには寝る人の割合が増えたという成果を述べるためには、どの言葉や数字に注目するのがよいのかを確認する。
 - ④ 注目する言葉や数字が何を意味するのかを考える。
などが挙げられる。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」62～65ページ

②活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える<指導事項・書くこと5・6年イ>

B②三 (正答率57.3%・全国58.3%)

- ・活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることができるかどうかをみる設問である。
- ・この活動報告文が「活動の結果を報告文にまとめ、学級の人々に伝える」という目的で書かれていることを踏まえ、その上で課題の効果について理解することが求められる。
- ・課題を記述することで、さらに成果が上がる活動を行って欲しいと考えたと捉え、そのことを説明しているのは、選択肢1となる。
- ・解答類型2の反応率は12.4%、解答類型4の反応率は19.0%である。どちらも活動報告文における構成のそれぞれの項目の効果（報告文における「成果」と「課題」といった項目の役割）を捉えていないためであると予想される。
- ・言語活動として、報告文を書かせる指導をする中で、相手や目的に応じて、文章全体の内容や構成の効果を工夫することや、それぞれの項目の効果などを理解させていくことが必要である。
- ・実際の指導にあたっては、「平成24年度B1」「平成27年度B1」「平成27年度【小学校】授業アイディア例」P.5・6等を参考にすることも重要である。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」67～69ページ

三 高野さんは、「早ね早起き」活動のまとめの中で、「1 成果」だけではなく、「2 課題」も取り上げて書きました。課題を取り上げた効果の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

4 成果が強調されて、この活動の必要性をより強く感じることができると捉えられている。

3 この活動に取り組むようになり、最初のきっかけに気づくことができる。

2 活動に取り組むよさが明らかになり、それを多くの人に広めることができる。

1 問題点を解決しながら、さらに成果が上がる活動につなげることができる。

(2) 書くこと・読むこと

- ①目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む
＜指導事項・書くこと5・6年ウ/読むこと5・6年ウ＞

B③三 (正答率55.0%・全国52.9%)

谷口さんたちは、将来なりたい職業について調べ、クラスの中で紹介し合うことにしました。谷口さんは、パン職人を選び、「資料1」を読みましたが、もっとくわしく知りたいと思ったので、「資料2」も読みました。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】職業について書かれた本の「パン職人の仕事」

焼き立てのがおりに包まれて

パン職人の仕事

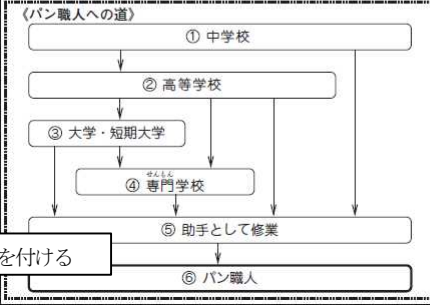
朝5時からパン作り開始

7時の開店に焼き立てのパンを並べるために、朝5時からパン作りが始まります。前日に準備した生地をパンの形にし、発酵させ、焼き上げます。何種類ものパンを作るため、朝から大忙しです。パン職人は、これを毎日行います。

気になる天気

パンの仕上がりは天気や気温、湿度によって大きく左右されます。翌日の天気予報を確認し、生地の配合や量を調節します。

5:00	パンの生地の確認
	パンの形作り、焼き
7:00	開店
11:30	パンの形作り、焼き
14:00	翌日の天気の確認
	翌日の生地作り
17:00	片付け
	翌日の準備
19:00	閉店



パン職人の声

パン職人になったきっかけを教えてください。子供のころから、ふわふわ、もちもちのパンの食感が大好きで、たくさんパンを食べていました。そして、小学校高学年のころから、そんな大好きなパンを、自分で作りたいと考えるようになりました。

◆ どのようにして、パン職人になったのですか。

中学校、高等学校を卒業した後、専門学校に入学していろいろな料理の基本を学びました。専門学校卒業後、地元のパン屋に就職して、パン作りの助手として修業しました。修業中は、夢中でパンの作り方を学びました。四年たってパン作りの全てを任せられ、職人として一人前と認められるようになったときは、本当にうれしかったです。

◆ この仕事の大変なところ、苦労は何ですか。

同じ種類のパンでも、材料の分量や発酵の必要があるので、毎日同じ味を作る必要があるので、毎日同じ味作り方を考えるのが難しいです。また、お客様がどんなパンを食べてほしいのか、自分が新しく考えたパンは、お客様に受け入れてもらえるか、さらには難しいです。

◆ どのような時に仕事の喜びを感じますか。

わたしはパンが大好きなので、パンのかおりに包まれているだけで幸せな気持ちになります。自分の思いどおりのパンが焼き上がった時は、とてもうれしいです。いいにおいにお包まれた時、どふっくらと焼き上がったパンがから出てくると、パン作りの苦労がふき飛びます。焼き立てのパンが店に並び、お客様から「わあ、「おいしそう」とか、んが上ることがあるのですが、そんなふうにお客様のうれしそうなお声が聞こえた時は、パン職人をやっているよかったですと実感します。

小見出しをヒントに、目星を付ける

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかき読むことができるかどうかをみる設問。
- 【特に心に残ったこと】を中心に紹介するため、【資料2】を読み直しながら、メモにまとめている活動である。
- 【資料2をもとにしたメモの一部】では、「苦労」と「喜び」を小見出しとして付けていることから、解答としては「喜び」に関連する部分を【資料2】から取り上げて文を書く必要がある。
- また、当該部分を【資料2】の全てから取り上げるのではなく、【資料2】の小見出しをヒントに「◆どのような時に仕事の喜びを感じますか」の部分から、探すという検索能力も問われるところである。
- 正答は設問中にもあるように
 - ①谷口さんの【特に心に残ったこと】が伝わるように書いている。
 - ②【資料2】から取り上げて書いている。
 - ③40字以上、60字以内で書いている。
 の3点になる。

(正答例) 焼き立てのパンが店に並び、お客様のうれしそうな声が聞こえた時は、パン職人をやっているよかったですと実感する。(53字)

• 条件①を満たしていない誤答例 (14.0%)

(誤答1) パンのかおりに包まれている時や、自分の思いどおりのパンが焼き上がった時などがうれしい。

三 谷口さんは、パン職人の仕事について、【特に心に残ったこと】を中心に紹介したいと考えています。そこで、【資料2】を読み直しながら、紹介したいことをメモにまとめています。次の【資料2】をもとにしたメモの一部の [] の中に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【特に心に残ったこと】

毎日、天気に関わらず同じ味になるように作るのは、とても難しいことだけれど、お客様が喜んでくれた時には、やりがいを感じることができるとだ。

【資料2をもとにしたメモの一部】

【特に心に残ったこと】

喜び

苦労

材料の分量や焼く温度などをその日の天気などに合わせて変える必要があり、毎日同じ味になるように作ることが難しい。

○ (条件)

○ 谷口さんの【特に心に残ったこと】が伝わるように書くこと。

○ 【資料2】から取り上げて書くこと。

○ 四十文字以上、六十文字以内で書くこと。

取り出した情報をこの条件で文にする

谷口さん

(43字)

(誤答2) 大好きなパンに囲まれた中での仕事はとても楽しいし、自分の思いどおりの味ができた時はとてもうれしいと思う。(52字)

これは、【特に心に残ったこと】の「お客さんが喜んでくれた時には」という部分を捉えることができていない。

・条件②を満たしていない誤答例(11.0%)

(誤答1) 自分がいっしょけんめい作ったパンをお客さんに喜んでもらった時にこれからもがんばろうと思う。(46字)

(誤答2) 早起きをしてパンを焼くのはいそがしいけれど、自分が作ったパンを食べたお客さんが喜んでくれるとやりがいがある。(54字)

これは、谷口さんの【特に心に残ったこと】を書いているが、【資料2】から取り上げていない。

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえるとは、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にすることである。また、「自分の考えを明確に」とするとは、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことである。
- ・具体的な指導として、読む目的によって文章の活用の仕方が変わり、引用したり要約したりする部分が変化するということを実感できるようにすることが必要。「平成26年度B2」「平成26年度【小学校】授業アイデア例」P.11・12等を参考にすることも重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」73～78ページ

※「国語B」と児童質問紙から考えられること。

	質問と肯定的な回答の割合	H25	H26	H27	H28
66	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	57.7%	59.5%	64.1%	65.9%
67	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	54.3%	56.2%	58.5%	60.2%
68	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	67.8%	70.2%	71.9%	72.5%

児童質問紙から、小学校国語の授業改善に対する指導者の意識は着実に高まっていると判断できる。B問題の記述式の設問については、正答率が70%を超えていないことから、記述の中に必要な情報が入っているのかなどを、的確に指導することが必要である。また、必要な情報は文章中のどこにあるのかを素早く見付ける力を付けることも必要であり、そのため、ある程度の字数のまとまった文章を、目的をもって読ませる指導が必要と言える。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 更なる言語活動の充実

①国語科は、児童生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。言語活動を設定した授業改善が進みつつあるが、今後も、更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変。

※伝統的な言語文化や国語の特質に関する学習の際、取り立て指導を行うことは有効な手段である。

学校質問紙「(72) 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」で肯定的回答は97.5%であった。その取組を有効にするために、そのコンテンツの選択、指導事項の定着のための手段の構築が求められる。

※基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しないことは言うまでも無い。

②小学校国語科においては、以下のような問題点が一部実践において見られる。

- ▼言語活動や教材が付けたい力にふさわしいものでないこと
- ▼指導事項・指導領域・評価の焦点化が進んでないこと
- ▼読むことの単元において、場面ごとの詳細な読解のみを行い、課題解決的な展開となっていないこと

その解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

- ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
- ②学習指導要領の言語活動例の確認すること

の2点は、必ず行うべきものである（①は年度内に随時見直しを行うことも重要）。

③また、望ましい言語活動や付けたい力をイメージするために、国立教育政策研究所が作成した

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」

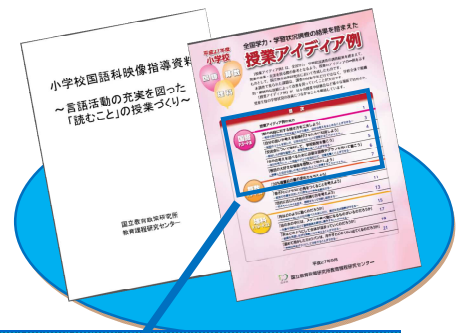
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>

- ・「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

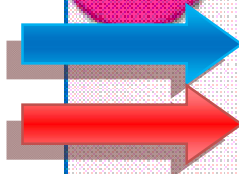
等をヒントにすることも必要である。

※本県の課題改善のためにH27年度版の以下のページをヒントに単元づくりをすることも有効な手立てと考えられる。



目次	
授業アイデア例の見方	1
「話の内容に対する聞き方を工夫しよう」 ～相手の話の目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる～	3
「自分の思いや考えを根拠付けるために引用しよう」 ～新聞のコラムを読んで、引用の仕方について理解することができる～	4
「交流会について取材して、学校新聞を書こう」 ～取材した内容を整理して、新聞記事を書くことができる～	5
「自分の考えを述べるために必要な図表やグラフを用いて書こう」 ～自分の考えに合った図表やグラフを見つけて、文章を書くことができる～	6
「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」 ～想像した自分の思いや考えが伝わるように音読することができる～	7

国語
P.3～P.8



(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

①目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。

②多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が可能となる。

※学校質問紙「(45) 調査対象学年の児童に対して前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか」・・・肯定的な回答 91.8%

③また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが必要である。

※学校質問紙「(24) 調査対象学年の児童に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」・・・肯定的な回答 50.4%

④不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

質問紙	「あなたはこの1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」(単位は%) ※県調査									
	0冊	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31以上	その他
県(28年度)	9.7	16.3	15.4	13.1	8.2	11.6	10.3	5.7	9.4	0.5
県(27年度)	9.1	16.4	15.5	12.2	8.3	11.5	10.3	5.7	10.6	0.3
県(26年度)	9.9	15.7	15.5	13.2	7.8	11.2	10.1	5.7	10.4	0.5

・1か月で1冊も読まないいわゆる「不読者」の割合は、昨年度から増加した。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で、読書指導を見直すことも必要である。

・児童質問紙「(18) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」

- ①だいたい週に4回以上行く 5.3%
- ②週に1~3回程度行く 19.5%
- ③月に1~3回程度行く 22.1%
- ④年に数回程度行く 24.1%
- ⑤ほとんど、または、全く行かない 28.8%

という結果である。自ら本に手を伸ばす児童の育成を図る必要がある。

・また、言語活動に取り組むために必要な事典や辞書が児童生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。

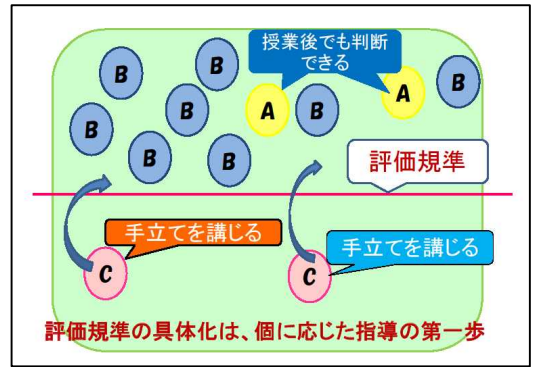


(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

①単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。

②この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

③学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることは有効であることから、「めあて—振り返り」、「課題—まとめ」を提示したり、考えさせたりすることは大切である。



(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと

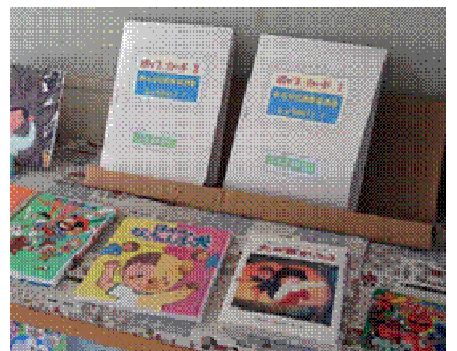
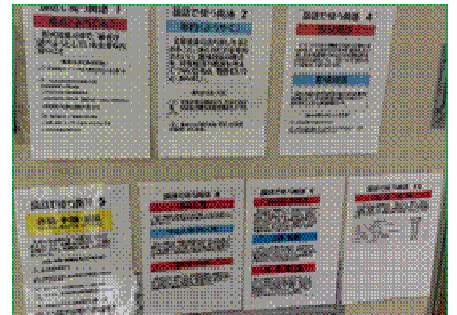
①必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「要約」とはどのようなことをであるのかを理解させておく必要がある。

②少なくとも、教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語

は、その学年で確実に理解させることが大切で、既習の用語は授業で使い、指導者があいまいな言葉を使わないようにしなければならない。

③また、学習用語を常に見えところに掲示し、理解を促す取り組みなども大切である。

④言語活動の成果物を掲示や展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる契機もなる。



(5) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。
- ・家庭学習等で行わせることも有効である。家庭学習の手順等を児童に指導することはもちろん、家庭との連携をさらに密にしていく必要がある。

※学校質問紙と児童質問紙との比較を行い、家庭学習が定着しているか、取組の検証を。

学校質問紙 92・96～100

児童質問紙 21～25



②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。
- ・また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（【例】各新聞社から配信されるワークシートを短時間で行う）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。

大分合同新聞 突風の多発時期 ワークシート

年 組 名前

大分県気象観測台によると、9月は台風など突風被害が多発傾向にあるといえます。

① 長家被害の棟数が最も多かったのは、いつの、どこかのケースでしょう。

② 被害の兆しとして、どのようなことが起こりますか。

③ 人の被害を防ぐ方法として、どのようなことに気を付ければよいと思いますか。話し合ってみよう。

大分合同新聞のN I E のページより
(<http://www2.oita-press.co.jp/nie/worksheet/>)

(6) 地域や学校で取り組むべきこと

①全国学力学習状況調査についての研修会

- ・学級担任等が、全国調査の結果分析を行うことはもちろんであるが、これを今後の指導の充実に資するものにするために、学校や地域全体で、情報を共有し、指導改善のベクトルを揃えることが重要である。そこで以下のような研修会を、学校や地域で開くことが必要になってくる。

(研修の例)

- ① 調査結果を受け、学校や地域において、正答率が低い問題や無解答率が高い問題を参加者全員で解く。
- ② 「解説資料」「調査結果資料」中にある問題についての解説や解答類型等を読む。
- ③ 上記①②から、何が指導の重点になるのかを協議する。



②自校採点や各地域での採点

- ・上記①の研修をより効果的なものにするために、正式な結果を待つのではなく自校や各地域で採点を行うことも一考すべきである。採点することで、一人一人の定着状況を把握・分析し、個に応じた指導に生かすことができ、授業改善が促進されるという利点がある。
- ・また、採点を通して、学習指導要領を踏まえた学習内容や、国がどのような学力を求めているのかを改めて知ることができる。
- ・自校や地域で採点をするとき、特に留意すべきなのが、一部の人間のみで行わないということである。自校や地域の課題を知るには、対象学年の担任や教科担任だけでなく、基本的に全員で行うことが不可欠である。